（別添資料１）

| 事業所名 | 児童クラブきりんの家 | 支援プログラム（児童発達支援） | 作成日 | R7 年 3 月 30 日 |
|---|---|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| 法人（事業所）理念 | | ・全ての人の尊厳を尊重し、安全で安心できる環境を創造します。<br>・全ての人が笑顔でいられるサービスを提供し、平等で公平な真の共生社会の実現に貢献します。<br>・地域社会とその人々に、介護・福祉を通じて貢献し続けます。<br>・常に創意工夫を重ね、プロフェッショナルで在り続けます。<br>・広い視野と鋭い視点を持ち、業界の改革に挑みます。 |
| 支援方針 | | 子どもと保護者のニーズに応じて、科学的エビデンスに基づいた支援を提供します。自立課題や学習支援、発語訓練などを取り入れ、発達段階に合わせたきめ細かな課題にスモールステップで取り組みます。<br>また、集団活動を通じて、社会性やコミュニケーションスキルの向上を図ります。他の子どもたちと一緒に活動する中で、主に以下の３つのスキルを育むことを目指します。<br>・順番を待つ<br>・周囲の意見を受け入れる<br>・感情を共有する<br>これらの活動を通じて、子どもの成長を多面的に支援する療育を行います。 |
| 営業時間 | 10 時 0 分から 17 時 0 分まで | 送迎実施の有無：（あり）　なし |
| | 支　援　内　容 | |
| 本人支援 健康・生活 | | 【衛生管理への取り組み】<br>施設内に入る前に手洗いを促し洗い方や拭き方などの支援と習慣化をはかっている。入室後検温、昼食前に手洗いと消毒、おやつ前に手洗いと消毒、施設内に加湿器設置。<br><br>【食事のサポート】<br>食事時には、食具の使い方や苦手な食べ物克服をサポートし、完食活動を取り入れています。昼食後やおやつ後には「テーブルタイム」を設け、食べ戻しを防ぐとともに、激しい運動を控える配慮をしています。この時間では、着席した状態で頭や手先を使う活動を取り入れています。<br><br>【衛生意識の向上】<br>衛生意識を高めるため、唾吐きや口に物を入れる行為、咳エチケットなどの改善指導を行っています。<br><br>【健康状態の観察と対応】<br>お迎え時には、園の先生やご家族の方からの情報を基に健康状態の常なるチェックと必要な対応を実施しています。特に、意思表示が困難である子どもの障害特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行っている。<br><br>【自立支援の取り組み】全体活動の中で身辺自立やSST(ソーシャルスキルトレーニング)、LST(ライフスキルトレーニング)を実施しています。　入退室後に関しては靴脱ぎ履き、荷物収納、水筒準備、靴下の脱着など日常生活のトレーニングを行い、個々のレベルに合わせた支援を提供しています。また、食事やトイレに関しても段階的なサポートを行い、自立を促しています。<br><br>【食育と時間管理の工夫】<br>週末には『クッキングの日』を設け、料理やお菓子作りなどを通した食育活動を実施しています。また、時間に応じた行動の切り替えをスムーズに行えるよう、構造化を意識した掲示物や指示を活用しています。 |
| 本人支援 運動・感覚 | | 【施設内での運動活動】<br>サーキットやバランスボールを使った運動を通じて、体幹を鍛え、身体の移動能力の向上を図っています。また簡易楽器を活用して感覚機能の向上を目指しています。<br><br>【感覚統合トレーニング】<br>全体活動では、感覚統合を目的としたプログラムを実施しています。これには視覚・聴覚・触覚を刺激するトレーニングが含まれ、子供の感覚の発達を支援しています。また、ダンスタイムの時間を設けており、音楽や映像に合わせての姿勢保持と運動・動作の基本的技能の向上や動作の補助的手段の活用を促いしている。 |
| 本人支援 認知・行動 | | 【創作活動と感覚刺激】<br>施設内では巨大ブロック、ニューブロック、レゴ、積木、ペタペタブロック、コロコロコースター、チェンジアブルトラックなどを用いた創作活動を実施しています。立体造形物を使った遊びを通じて、子どもの創造力や空間認識能力を育みます。また、全体活動の中でヴィジョントレーニングや音楽・リズムを活用し、五感を刺激する活動を行っている。<br><br>【時間管理と行動支援】<br>施設内に時計を設置し、時間ごとの活動内容が分かるよう掲示物を用意しています。スタッフが適切な号令をかけることで時間の概念形成を促し、認知や行動の手がかりとして活用できるよう支援しています。<br><br>【テーブルタイムでの学習支援】<br>テーブルタイムでは、個別に作成したドリルを使用し、数量、大小、色などの学習を進めています。声がけを通じて危険認知や状況認知、声の大きさの調整などのスキルを身につけられるよう支援しています。また、映像タイムを取り入れることで、心を落ち着けたり「帰るサイン」を示したりするなど、子どもの知覚から行動への認知過程の発達をサポートしています。 |
| 本人支援 言語コミュニケーション | | 【個別の学習支援】<br>1人1人にドリルを用意し、障害の特性に応じた読み書き能力の向上を支援しています。また、それぞれのニーズに合わせた取り組みを通じて、学びの楽しさを体験できる環境を提供しています。<br><br>【コミュニケーション能力の向上】<br>全体活動では、言葉を用いたゲームや、集団の前での発表を取り入れています。具体的には子供たちに選択肢を与え、自分の考えを発表させたり、用意した質問に答えさせたりするプログラムを実施しています。また、友達への質問を通じて、相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指しています。<br><br>【発語支援と言語の習得】<br>発語が無い、または発音が不明瞭な児童には、指差しや身振り、サイン等を活用して環境理解と意思伝達を支援しています。具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけることで、体系的な言語習得を促し、自発的な発声を引き出すサポートを行っている。さらに名前呼びや手遊び、絵本、おもちゃ遊びを取り入れることで、言語形成とその活用を促している。<br><br>【受容言語と表出言語の習得】<br>グループ遊びの際には、子供たちがお友達を誘ったり、「入れて」「貸して」「いいよ」「あとでね」「ありがとう」「ごめんね」といった言葉を使う環境を作っています。このような場を通じて、他者とのやり取りを自然に体験し、受容言語と表出言語の発達を支援しています。 |
| 本人支援 人間関係社会性 | | 【象徴遊びを通じた社会性の発達支援】<br>施設では、おままごとセットやお店屋さんセットを用意し、見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊びといった象徴遊びを通して、子供たちの社会性の発達を支援しています。これにより、他者と関わりながら想像力を育むことを目指しています。<br><br>【一人遊びから協同遊びへの発展支援】<br>一人遊びから並行遊び、連合遊び、そして役割分担やルールを守る協同遊びへと発展するよう、大人が適切に介入して支援しています。例えば、周囲の子どもに無関心な児童には、並行遊びを促し、その後段階的に他者との関わりを深める遊びへと進めることで、社会性の向上を図ります。<br><br>【集団活動への参加支援】<br>全体活動では、子供たちが個々に抱える苦手な課題に挑戦したり、集団に参加するための手順やルールを理解できるよう支援しています。集団の中で自分の行動の特徴を理解し、自分の要望だけを優先するのではなく、我慢や情動の調整を学ぶ機会を提供しています。<br><br>【アタッチメントの形成】<br>子どもたちとの信頼関係を築くため、ポジティブな声がけや褒めることを積極的に行っています。<br><br>【模倣行動と集団行動の支援】<br>全体活動の中で手遊びや絵本の時間を設け、子供たちが一緒に座って待つ、順番を守る、並ぶといった行動を通じて、集団への参加や模倣行動を支援しています。これにより、他者と同じ行動をすることの楽しさや重要性を学びます。 |
| 家族支援 | 【HUGシステムによる情報共有】<br>家族間のコミュニケーションを促進するためHUGシステムを導入しています。このシステムでは、写真や文章を通じてお子様が施設でどのように過ごしているかを共有できるようにしています。また、特記すべき内容については、保護者専用メッセージ機能や電話を活用して、詳細な情報の共有を行なっています。<br><br>【面談と支援活動】<br>個別支援計画作成やモニタリングに加え、以下のような目的を持った面談を実施しています。<br>・保護者のストレスや心の健康に関する支援<br>・特別なニーズを持つ子どもへの対応方法の指導<br>・自宅や他施設での様子や育児についての相談<br>・子供の将来についての相談<br>これらの取り組みを通じて、保護者と施設が一体となり、お子様の成長を総合的に支援しています。 | 移行支援：【年長児童の小学校への移行支援】<br>年長児童に対しては、小学校への移行をスムーズに行うため、集団行動や机に向かう姿勢の練習などを行なっている。具体的にはテーブルタイムで個別ドリルを配布し、算数や国語を一人ひとりのレベルに合わせて行っている。<br><br>【集団生活の練習】<br>児童全員に対しては、時間割を用いて活動の切り替えの練習を行なっています。また、ルールを設けた集団生活の練習を通じて、学校生活で必要となる協調性やルール遵守の意識を育てています。 |
| 地域支援・地域連携 | 【ケース会議の実施】<br>園の先生、相談員、他施設の職員などと連携しケース会議を実施しています。この会議では、利用児童の発達支援や教育環境の改善に向けた具体的な課題や方針を話し合います。<br><br>【施設間連携と情報共有】<br>利用児童が通う園や他施設への訪問を行い、以下のような支援を実施しています：<br>・子どもの発達支援に関する情報の提供<br>・支援が必要な子どもの教育や日常生活における配慮事項の共有<br>・先生や職員への具体的な支援方法の助言<br>これらの活動を通じて、子どもが適切な環境で成長できるよう、多方面から支援を行っています。 | 職員の質の向上：【専門性向上のための支援】<br>職員の専門性を高めるため、外部の専門家によるセミナーや講演に参加しています。また、資格取得を支援しており、保育士、児童指導員、児発管、サビ管、介護職員初任者研修など、さまざまな資格取得を促進しています。これにより、職員が専門的な知識と技術を習得できるようサポートしています。<br><br>【支援の効果を高めるための情報提供】<br>支援の効果を最大化するため、HUGシステムを活用して日報を作成し、スタッフ全員で情報を共有しています。これにより、日々の活動内容やお子様の状況をリアルタイムで把握し、適切な支援を提供しています。<br><br>【認識の統一と対応の強化】<br>定期的にMTG(ミーティング)を実施し、スタッフ間で認識の統一を図っています。これにより、児童情報や重要な項目に関する共有がスムーズになり、統制の取れた対応が可能となっています。 |
| 主な行事等 | 施設外では公園、博物館、動物園、スポーツセンター、店舗などへお出かけ、施設内では夏祭りやクリスマス会など季節ごとのイベント、お誕生日会、工作、クッキング | |